



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高 2020

神戸新聞 令和2年5月16日(土)

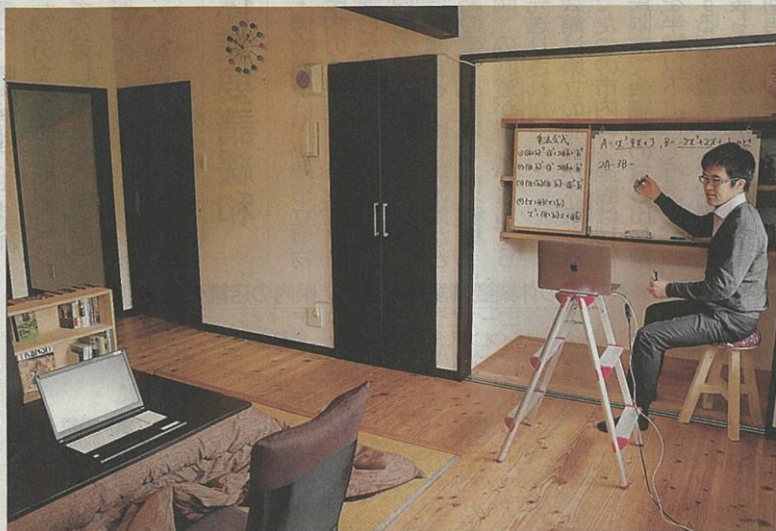
新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休校が続く氷上西高校（丹波市青垣町佐治）で14日、数学のオンライン授業が始まった。15日は、学校から感染者が出て登校

できなくなった場合を想定し、在宅勤務の教諭がテレビ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使い、自宅からオンライン授業を行った。
(真鍋 愛)

反応上々オンライン授業

同校では休校期間中、課題のやり取りなどで生徒の学力維持を図っていたが、生徒や保護者からオンライン授業導入に関して質問が寄せられ、実施を決めた。休校中の課題で疑問が寄せ

新型コロナ 臨時休校続く 氷上西高校



神崎悠哉教諭の自宅で開講された、数学のオンライン授業の様子＝丹波市内

教諭テレワーク想定自宅から講義も

られた問題や、間違いやすい点の解説を中心に進め、参加は任意という。
学校が提供するオンライン授業では、教諭が校内の教室から配信する場合が多いが、15日の同校1、3年生の授業は、数学教諭で同市内に住む神崎悠哉さん（36）の自宅で開講された。リビングのクローゼットを改装した空間に、ホームセンターで購入したという縦60センチ、横90センチのホワイトボードを設置し、脚立に乗せたパソコンから授業を実施。当てられた生徒が正解すると、他の生徒からは拍手の絵文字が送られた。
3年生の井上連さん（17）は「リアルタイムでやり取りできるので分かりやすかった。毎日あってもいい」と笑顔。入学後、初めての授業を受けた1年生の村上太陽さん（15）は「コロナ休みで勉強が進まない中、助かった。とても楽しかった」と声を弾ませた。
神崎さんは「恥ずかしくて声を出せない生徒をどの様にして授業に引き込むか、難しい点もあるが、生徒の反応は上々」と話していた。